



- ①のちをたいせつにする
- ②しきをちえにいかす
- ③がおではたらく
- ④れにでもあいさつする

いちえだ

やさしく かしく
たくましく
学力・学習状況調査報告号
校長 丸山 裕司

平成26年度 全国学力・学習状況調査の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

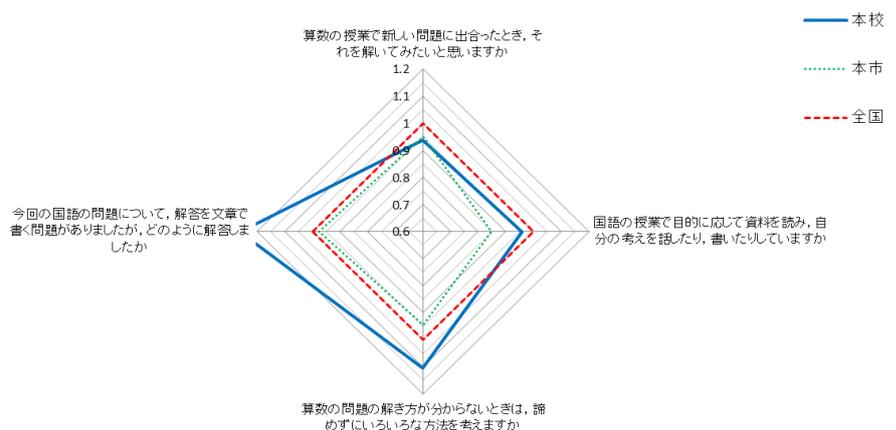
① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語A	全国平均を上回っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的には全国平均正答率をやや上回っており、基礎的な書く力や読み取る力の定着が見られた。 ・ 言語についての知識・理解の正答率がやや低く、課題が見られる。
国語B	全国平均を上回っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国正答率を大きく上回っており、文章を適切に読み取り、整理して表現する力が高まっている。 ・ 記述による解答に苦手意識を持たず、簡潔な文章で表現する力が高まった。
算数A	全国平均を上回っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国正答率を上回っており、昨年と同様の水準であった。 ・ 「量と測定」「数量関係」の領域の平均正答率が高く、「数と計算」の領域の平均正答率はやや低い。
算数B	全国平均を上回っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国正答率をわずかに上回った。最後まで粘り強く取り組むことができ、無解答率も大変低い値であった。 ・ 「図形」の平均正答率がやや低く、図形の応用問題に課題が見られる。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

- ・ 算数の問題への粘り強さに対する質問では、諦めずに取り組む児童の割合が全国平均を大きく上回った。また、国語の問題に対しても、多くの児童がすべて最後まで努力したと回答している。さらに、学力調査の無解答率が大変低くなっていることから、問題に対して自らの力で解決しようとする児童が増え、全体的に粘り強く学習に取り組むことができるようになったことが明らかとなった。今後は、問題への出会わせ方を工夫して、児童の興味・関心が高まるような授業づくりに取り組んでいく。
- ・ 自分の考えを話したり書いたりする活動は、抵抗感を持っている児童がやや多いが、今までの継続的指導により考えを整理して書く力はついてきている。自分の考えを表現しようとする児童を賞賛したり、児童自らが表現力の伸びを実感したりできるような指導を行い、児童が自信を持って表現活動に取り組めるようにしていく。

本校と本市の対全国比（全国を1とする）

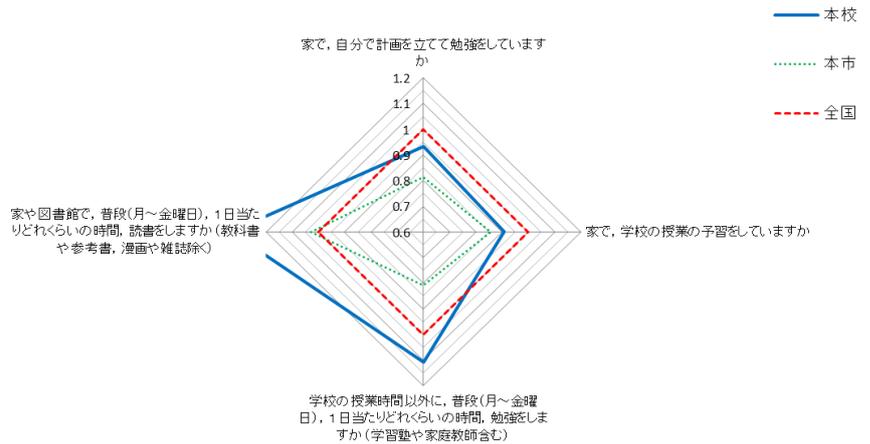


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

①家庭学習習慣に関する調査結果と分析

- 家庭学習の時間は全国平均を上回っており、これまでの取組の成果が表れた。しかし、学習内容は宿題やそれに伴う復習が中心で、自ら計画したり、次の学習に興味を持って予習したりする児童は少ない。今後は、家庭学習の内容の充実に取り組む必要がある。
- 児童の読書量は全国平均を大きく上回った。今後も毎週実施している「10分間読書」や学校図書館の充実、読み聞かせボランティアの活用等の取組を継続し、読書好きの児童の育成に取り組んでいく。

本校と本市の対全国比（全国を1とする）



②生活習慣に関する調査結果と分析

- テレビ等の接触時間は増加傾向にあり、特に3時間以上の長時間の利用の割合が増えている。また、インターネット等は、所持していない児童が過半数であったが、所持している児童の使用時間は、全国平均を上回っていた。家庭での生活習慣の改善を促していく取組が必要である。
- 地域社会との関わりが浅い児童が多い。家庭・地域・学校が一体となって児童を見守り育成するよう働きかける必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

◎は現在取り組んでいること ○は今後取り組むこと

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・ チャレンジタイム（週2回15分、計算、読書）を全校一斉に実施。
- ◎ アシストシート、朝自習プリント、過去問題等の活用
 - ・ アシストシートや朝自習プリント等をチャレンジタイムや朝自習で使用し、基礎基本の徹底を図る。
 - ・ 過去問題や活用力を高めるワークを冬休み、春休みの宿題にする。
- ◎ 言語活動の充実
 - ・ 自分の考えを説明したり、学習の振り返りを書いたりする活動を取り入れる。
- 少人数指導担当の重点配分
 - ・ 調査結果から低い値にある算数の領域の学習は、重点的に少人数指導を実施する。
- 授業改善のための研修
 - ・ 児童の知的好奇心や問題解決への意欲を高めるための授業研修を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎は現在取り組んでいること ○は今後取り組むこと

- ◎ 宿題のスタンダード化（時間、学年別・教科別内容）
 - ・ 自主学習ノートの活用
 - ・ 家庭学習時間の設定
 - ・ 「家庭学習の約束」の作成・実施
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用を学校だよりで保護者へ周知
 - ・ 家庭学習マイスター賞への応募
 - ・ 冬休み・春休みの宿題に、過去問題や活用力を高めるワークを活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・ 学校だよりや学級懇談会等で、結果と取組を説明し家庭と連携し協力体制を整える。
- 保護者・地域との連携強化